

ホーム名：グループホームやすらぎ					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はディールーム及びエレベーター前に提示し 入居者一人一人その人らしさを大切にし入居者の立場に立ったサービスの提供を職員に伝えている	本ホームの理念は「共に生きる」ことであり、その文言は訪問者にも分かりやすい所に掲示されている。職員が入居者の立場に立って物事を見、聞く事によって互いに理解し合い共に生きる事が可能になった。この理念のもとに本ホームの共同生活の基盤が成立している。	理念の共有化を深める為に、各会議がある毎に唱和をお勧めしたい。基本方針を再認識する事で互いに啓発しあうようになり、より一層の支援活動の励みになると考えられます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の町会の行事に参加したりボランティアの受け入れ中学生の職場体験の受け入れ等実施している。	本ホームは地域との交流を深める為に公民館祭り、盆踊り祭り、地元の伝統の祭りであるだんじりを見物など積極的に関わっている。地元中学生のボランティアの受け入れもして若い世代にも正しい理解を得てもらおう努力している。	地域と直接触れ合う機会を得たり、相互交流の絆が本ホームの理解に繋がっている。日頃からの途切れない地道な努力に期待していきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	久米田病院の医師や認知症ケア専門士の資格を持つ看護師が地域包括支援センターと共に認知症についての市民講座を開催している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所と地域包括支援センターが運営推進会議に来所されていたが地域包括支援センターのみに変更になった 家族様の参加は奇数月の第3週目と決めたので以前より参加人数が増えた 今後は意見を生かす努力をしたい	運営推進会議は二か月毎に開催されている。参加者は包括支援センター職員、町会長、介護相談員、家族代表者等である。家族が直接話せる場でもあり、具体的な介護のあり方まで話が及ぶ。議事録は全家族に送っているが反応は小さい。	市職員の参加を促し続けて頂きたい。議事録に対する家族の反応を促す意味においても議事録とアンケートを同封してはどうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の議事録を持っていくときに 話を伝え助言を頂けるようにしている	ホーム内での諸問題や提案などについて市に助言を求めたりしている。また市からフェイスブックを利用してはどうかという提案も受けており、現在は実践に至っている。常に市との連携を密にし協力を得やすい関係を維持している。	市の持っている福祉関係の情報を把握して、ホームの福祉活動に如何に活用できるかを検討して頂きたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は遅出が出勤時から17:00まで開放し 身体拘束はしていない 入居者の居室も通常は施錠しない方針。どうしても施錠しないと落ち着かない方は施錠しない場合と一緒に都度施錠開錠するように対応行う。身体拘束等の適正化委員会も2か月に1度行い身体拘束は行わない方針です	身体拘束はしないというのが本ホームの基本支援である。これを的確に守っていくために、2ヶ月毎に身体的拘束等適正化委員会を開き、日々の介助状況の報告と拘束のない介助の方針の確認を行っている。入居者の安全確保については常に新たな検討事項として話し合うようにしている。	入居者に対して身体拘束はしない、させない、という基本的方針を明確にされ、それにともなった支援を実践している。これからも、この方針を堅持され、質の高い福祉支援の継続を期待していきたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年 研修に参加し 報告を聞き資料など閲覧している また、朝のカンファレンスや認知症ケア会議などでも、度々話している「高齢者虐待の定義」については 職員に意識してもらえようように繰り返し話し合いの場を持ちたいと思う		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>子供がいない入居者のご家族様には 成年後見制度などの説明を行い制度につなげている</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分に時間を取って説明し 理解を得ている</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見は速やかに対応し運営に活かしている。また、介護相談員や傾聴ボランティアの方々にも相談等が出来るようにしている。家族様は来所時 運営推進会議 家族会で意見を出せる場があり スタッフで話し合い反映させている</p>	<p>家族会開催の日は運営推進会議と同じ日になるように調整している。これにより家族の意見や要望が速やかに提出され、検討されやすい体制になっている。</p>	<p>家族の運営に関する意見のなかには、以前から提案されている件と類似しているものがある。それ等の意見については家族からの強い要望であると解釈され、今後の課題としてホーム全体で共有され、反映されるよう期待していきたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員の入退者で生じる問題や業務内容の変更などもスタッフの意見を反映し、また理解していただけよう努力している。個々の職員の意見も施設長が面談する機会を設け反映させている</p>	<p>職員の意見や提案については、定例の会議で取り上げられ反映に向けて検討されている。また日常の支援時に於いても特別に話し合いが行われる時もあり、常に改善に向けての努力が行われている。</p>	<p>職員が常に自分の意見や提案が出しやすい環境にある事は評価したい。これからも、管理者と職員との信頼関係の維持に努めて頂きたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は病院の理事長であり話し合いなどはありませんが就業規定に定義されており管理者が勤務表を作る時 各自の希望を聞いたりしている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得推進の為の協力は惜しみません スタッフの個々に応じた研修の受講を実施しており実践者研修・リーダー研修についても環境が整い次第行っていただく予定</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>「アムール岸和田」で認知症カフェを共同開催している。また、大阪緑ヶ丘の緑カフェには都度違うスタッフと共に参加し他施設の取り組みや環境を实际目で見てサービスの質について各自考えていただいている 事業者連絡会も参加しています</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時までには、センター方式を利用しご家族様から入居者様の様子を教えていただいている。入居者様と話をしてその人となりを理解する努力をしている。また 施設に来ていただいたり家庭訪問もしている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居後は 落ち着くまで経過把握用紙を24時間体制で記入し密にカンファレンスを行っている。場合によっては家族様にも見て頂き 経過を知って安心していただけます。家族様に教えていただく事も多く 要望等はお話しいただけるような関係を作るよう努力している</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>施設見学に来られた時に 自施設の特徴を紹介した上で 各グループホームでも内容や特徴が違うことを説明し、他施設の施設見学も推奨している。認知症系の老人施設紹介も実施している</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の方々の会話から その時代を知ることが出来 良質な援助につながるものが良くあります 何事も本人の気持ちを確かめながら一緒に行う事を基本とし 理念の通り支援している</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族様も家庭内でそれぞれ事情があり、双方の意見が食い違う場合は入居者の視点でお願いする事がある。家族様とのきずなが細くならない援助を行い納得のいく話し合いの場を持つようにしている</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>岸和田城、トンボ池公園 マドカホール等 入居者が足を運んだと思われる場所に出かけている 町会館 市民センター等もなじみの場所になりつつあります 近くのお大師さんの月参りは天候が良い場合は行くようにしている</p>	<p>入居者は地元の方が殆んどである。ホームの近隣には馴染みの場所が多く、外出支援も積極的に行われている。時には一階の通所リハビリセンターの車を利用してして岸和田城まで出かける事もある。</p>	<p>職員は一人ひとりの馴染みの場所や人を把握している。これからも、話題の中に思い出話を取れ入れてあげ、入居者の気持ちに安らぎを与えてあげて欲しい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ディルームでは必ずスタッフが見守っており 利用者はレクリエーションや日常生活の中がかかわりを深めている 良好な関係を保つために 時には席替えをしながら支えあえる支援に努めている</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>久米田病院に入院される方が多いので 往診の医師や病棟の師長から様子を聞くこともできる 家族様に出会う事もあり近況を伺い時には相談を受けている 葬儀に参列させていただく事もある</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様からの情報提供や外出先、外食等本人の意向に添えるよう配慮しています 難しい場合には 理由を説明しご理解いただけるように努力している	一人ひとりの入居者については家族からの情報提供を基礎にしている。入所後の生活環境の順応を見定めながら、その思いや意向を察知し、職員どうしで話し合いし、共有し合うようにしている。	入居者の思いや意向を正確に把握するには、入居者の立場で物事を考えるという視点転換も有効な方法である。支援する側と受ける側の両面に立ちながら、これからも、入居者の心理の把握に努めて頂きたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居の際センター方式に記入していただき情報収集し、新たに得た情報はスタッフがカンファレンスにかけ共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、カンファレンスで話し合いの場を設けている入居数日は経過報告シートに記載し心身状態の流れを把握共有している 連絡ノートも使用し共有している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、看護師、スタッフでスタッフ会議を開き カンファレンスやモニタリングを行い、日常のカンファレンスで行った評価も行っている 暮らしに密着した計画を作成している	介護計画作成ではスタッフ会議で検討された議題を参考にする場合が多い。カンファレンスやモニタリングで蓄積された情報を元に、長期短期の目標を作成し実践へ向けて支援していく。見直しが必要な場合は、常に即応的に変更するようにしている。	見直し対応が柔軟的であり、入居者にとっては、より良いケアが受けやすい体制であるといえよう。これからも、常に改善に向けてのスキルアップをお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は共有し 全員把握している 毎日の個別記録を参考にし介護計画の見直しやカンファレンスを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	階下のディケアゆうパルに理学療法士と作業療法士がいるので歩行 睡眠 嚥下等 多岐にわたり気軽に相談でき対応してくれる。やすらぎの入居者とも顔なじみの関係となっている		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	色々な催しに出かけ交流をしている。ボランティアの受け入れをはじめ 傾聴ボランティアもお願いしている 生け花が好きな入居者のために 他のグループホームの花カフェにも出かけている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院の主治医がすぐに対応している 休日、夜間等緊急時の対応は 併設病院の医師 看護師に連絡し 適切に連携 支援している	入所時に施設の協力医が久米田病院である事を説明し協力医の受診をお願いしている。家族からの特別の要望があれば、従来からのかかりつけ医の受診も継続してできるよう配慮するようにしている。	かかりつけ医の受診では専門医である場合が考えられます。これからも、本ホームの協力医とかかりつけ医との連絡を密にしながらかかりつけ医との関係維持に努めて頂きたい。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師は階下のディケア兼務で午後やすらぎに来所 毎日の状況をチェック、服薬の準備など行い気づきがあれば職員に適切に指示。緊急時には時間に関係なく対応している 看護師不在の緊急時には併設病院の看護師に相談している</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には情報提供表を使用しその人らしく対応していただけるように配慮している 併設の病院には看護師や管理者が出向き情報交換している 緊急対応の病院には退院後の援助の仕方などが適切に把握できるような関係を保つよう努力している 入院時の洗濯等施設で行い援助している</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に重要事項説明書の説明と共に方針も伝えている。ただ、なかなか実感される家族様は少ない為 ある程度の時期に家族様と再度向き合って対話している</p>	<p>家族と入居者は、重度化した場合の文書説明を受けて貰った上で入所してもらっている。医師の診断により重度化の方向にあると判断された時には、再度家族との話し合いが行われ、特養や久米田病院に入院してもらい、終末期への介助を受けて貰うようにしている。</p>	<p>これからも、入居者の為に「共に生きる」の理念を実践され、最期まで惜しみのない介助支援をお願いするものである。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対応マニュアルも有意義に活用しており 救急に至る前の段階で気づくことが出来るよう脱水 排泄 睡眠状態などの変化を共有している 緊急時は看護師や併設病院との連携を想定したマニュアルもある</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を実施 町内会、併設病院等協力体制はお願いしている 防災の会議を開き備品も購入 栄養課と連携し保存食も準備している 施設外に避難する時に首にかける防災連絡票も作り置いている</p>	<p>避難訓練は年二回実施し消防署の立ち合いも求めている。本ホームは二階にある為、入居者を下階に誘導する時は職員が介助をする。緊急時には一階の職員が応援にくる体制にある。消火器は入り口と廊下に設置され、各居室にはスプリンクラーが完備されている</p>	<p>実際の救助活動には想定外の困難さも考えられる。特に新入職員は避難訓練が、まだなされていない場合もある。あらゆる事態を想定して万策を練って頂くようお願いしたい。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報である記録等は保管場所を決め施錠できるようになっている。居室への訪問は必ずノック声かけを行い言葉づかいも問題があればスタッフ間で討議している	一人ひとりの立場で物事を考えるようにしている。入居者には「～さん」と静かに呼ぶようにしている。人格やプライバシーの保護には常に職員どうして話し合いし、入居者に不快感を与えないように励んでいる。	人格を認められる事によって入居者にも自尊心のある人生が出来る。これからも、人生の先輩である入居者の人格とプライバシーの保護の支援を継続して頂きたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別対応を大切にしている 言葉にならない行動には「どうされましたか？」と問うことで考えることを支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝コーヒーを飲みながら皆で日課を決めている 入床、起床時間は決めておらず 外出時は各個人の希望に沿った場所へ行けるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の状態に合わせ 訪問理美容師をお願いしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けは入居者の方と職員が一緒に行い 職員も一緒に食事をしている	食事は協力医院である久米田病棟の栄養課で作ったものを給食として受け取っている。入居者にも盛り付けの一部や配膳も手伝ってもらう事もあり、皆で楽しい食事の時間を過ごしている。	一人ひとりの好みのメニューも聞き、可能な限り取り入れて欲しい。また個人の好みがある漬物のような嗜好食材も可能な限り用意されるようお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	栄養士による献立でバランスよく食事が作られている 個々に応じた食べやすい大きさに加工している 水分摂取が難しい入居者には水分ゼリーを使用し水分確保できるよう配慮し デイルームにお茶を常備し自由に飲んでいただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各自、食後すぐに口腔ケアの声掛けを行い 援助している。義歯は夜間、洗浄液につけ清潔を保持している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	生活リズムを整えると 全介助からトイレに行くことが出来るまで回復された方がいる。トイレ誘導 紙パンツ パット 紙オムツ等各自に合わせ支援している。排便、排尿の時間や有無は記録し共有する事で把握し羞恥心に配慮しながら支援している。	入居者の一人ひとりの起床時間、就寝の一日の生活リズムを調整管理して、体調の良好化を実現させている。この事が排泄パターンの安定化にも繋がっている。居室の出口のすぐ横にはトイレがあり、職員も入居者の自立排泄に向けての支援がしやすい環境にある。	排泄支援の具体的な対応には職員によって多少の違いがあるものと考えられる。互いに十分な話し合いと共有化を図られ、スキルアップにつながるようお願いしたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の確保 朝食時、おやつ時 フルーツの提供も多く散歩や竹踏み レクリエーションなどの運動量も便秘の予防対策として対応している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯、曜日は決めているが本人のタイミングや希望、体調により臨機応変に対応している。場合によっては 階下ディケアゆうパルの大浴場を利用できる。	入浴は週に3回ある。入居者本人が入浴を拒む場合には、時間をおいて誘うようにしている。浴室はガラス張りを通して坪庭が見え、全体が開放的で極めて明るい感じを受ける。季節に応じて菖蒲湯やゆず湯のサービスもあり、入浴を楽しんでもらっている。	普段からあまり入浴を好まない入居者にはその深層的な理由を考えてあげ、気持ちの転換に繋げるような事を考えてあげて欲しい。

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>起床、入床時間は決めていない</p> <p>散歩やレクの合間は居室で臥床したり ソファで休息したり 自由に生活している 昼夜同じスタッフのローテーションなので 信頼関係を密に支援している</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬リストは職員がいつでも見られるよう個人記録に閉じており事務所に保管 服薬変更は看護師もしくは管理者から説明している。服薬は複数のスタッフがチェックするほかチェックリストも活用し間違いの無いように支援している</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食事の準備、片付け、洗濯干しなど個人の力を見極め手伝ってもらっている。毎日、午前中の光を浴びながら散歩等に外出することが一番 気分転換になっている</p>		
49 18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>天候不順でない限り 散歩に出かけている 近くにできた薬局に買い物に出かけたり 久米田寺のお大師様等で 地域の方と交流することが出来ている</p>	<p>本ホームの特徴的な支援活動のひとつに外出支援の多さにある。近くには公園や池や寺院もあり、地元の人達との交流にもなっている。外出可能日には毎日6～7人の割合で散歩に出かけ、健康維持に繋がっている。</p>	<p>外気に触れ合う解放感は精神のリラックスにもなっている。入居者の精神面と健康面を活性化させるこの支援を、これからも基本方針のひとつとして継続させて頂きたい。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>数人の方がお金を所持している 月参りのお寺にお賽銭を出したり 薬局での買い物では自分で支払いが出来るよう支援している</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>公衆電話も設置している 現在は手紙で近況を伝えたり 携帯電話を使えるような入居者はいない</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節ごとに利用者と一緒にダイルールの壁面飾りを作成し 廊下の壁にも 記憶に残る思い出の飾りを掛けている。周囲に大きな建造物がいないため静かな環境が保たれている 中庭からの採光は充分取り入れている 温度計の設置 空気清浄機の設置等 居心地のよい環境にしている</p>	<p>正方形の中庭が見える一角にかなり広い共用空間がある。ここには不要な音も、原色的な色合いもない。全体的には落ち着いた大人っぽい雰囲気仕様の仕様になっている。壁には入居者と職員が共に作った季節ごとの作品が掲示され、心を和ませてくれる。入居者はここを寛ぎの場所として利用している。</p>	<p>共用空間は理念の「共に生きる」の生活部門での実践場である。長時間いても不快に感じない環境づくりにご尽力いただきたい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間は有意義に活用し 観葉植物を配置し椅子を置いたり 廊下やテレビの周りにソファを置くなど工夫している 廊下の椅子に座り中庭を眺める方もおられ自由に過ごすことが出来る</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内も広い為個人の愛着のある家具等多くのものを配置している 多くの写真や飾り物を持って来られる家族様もおられる</p>	<p>居室は十分な広さがあり、各人の好みに合った家具や、時計、カレンダー、写真といった置物が設置され、生活感のある居室づくりとなっている。ベッドは高さ調整が可能であり、安全面での配慮がなされている。掃除は毎日行われ清潔で快適な生活ができています。</p>	<p>一人ひとりの好みを聞くなどして、時には新しい物を置いてあげるなど、ちょっとした変化の工夫もいいのではないだろうか。家族との相談も必要であるが一考されてみてはいかがだろうか。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の表札は漢字に振り仮名をふっているが 理解が難しい方や背の低い方には目線に合わせた位置に表札を作っている。トイレ、風呂場もわかりやすく表示している</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない